

Try & Challenge

18歳

昭和から平成に移り一つの時代が終わりを告げた頃、20世紀も終わりに近づき何かが終わってしまいう終末感が漂っていました。「川の流れのように」が街に流れ、天皇が崩御し私は昭和最後の中学卒業生で、平成最初の高校入学となったのです。

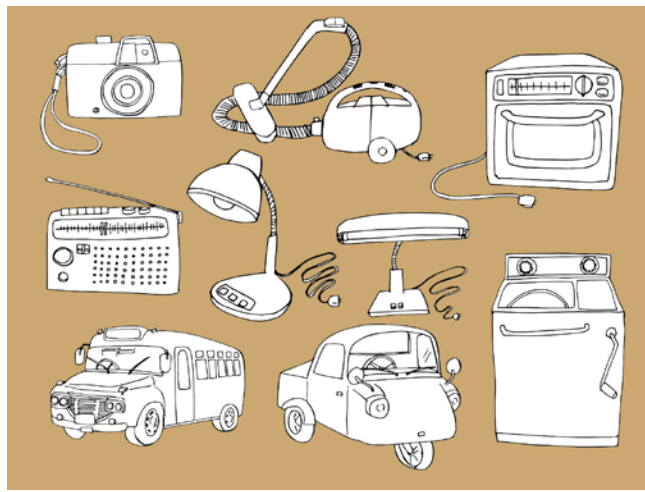
20歳を迎えるまでに消費税導入、湾岸戦争、細川内閣発足と時代は急速に動きまわりました。未成年である私達は蚊帳の外で。そんな時代の中で成人を迎えた後はバブル崩壊による就職難。失われた20年の中を漂っていました。しかしこの目で浮かれた時代も見てきた私達は『やがていつかは』という幻想を上世代と同じ様持っているのです。

私達はそんな世代です。未だに自分を若者だとの幻想を持ち、本当の若者の気持ちを感じることが出来ません。時代という川の淀みに沈まない様に掴んだ夢を離せないのです。その夢さえも若い世代にバトンタッチする事はありません。大人側に立たず若者側に立ちたいのです。それを証明するのが、先の参議院選挙ではあれだけ騒いだ18歳選挙権も時が過ぎたら18の文字さえ出てきません。「やがていつかは」なんてものはいつまで待っても降ってきません。

平成の終わりが近づいた今、若者達に伝えたい。学生の皆様は周りが

学生ばかりだと気付かないかもしれないかもしれませんが社会の中ではマイノリティーです。自らの手で何かを掴まなければ「手にするものは夢でしかない」と云う事を。それを自分にも言い聞かせたいと思っています。

(辻 純志郎)



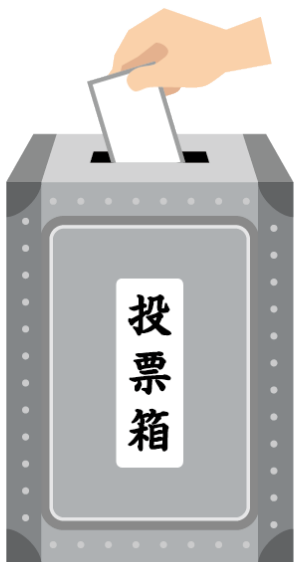
私たち自身で将来を選択しよう！

10月29日の越谷市長選挙に伴い、私が共同代表を仰せつかる「埼玉政経セミナー」にて「私たちが市政に責任を持ち私たちが自身で将来を選択しよう！」の取り組みとして越谷市長選挙立候補予定者の方々全員に「公開アンケート」「公開討論会」「駅前リレートーク」へのご参加依頼をさせて頂いた。

しかし開催に時間もない企画の中で、衆議院解散総選挙が行われることを知る。それにより開催する公開イベント等への制約を知るために越谷市選挙管理委員会事務局へ仕事の休憩時間、訊きに行ったりした。また「駅前リレートーク」開催が制約を受けるため、開催の再検討やそれに伴う申請などメンバーがそれぞれの役割の中でご尽力いただいたことと思う。

この原稿を作成している今日は9月24日、10月5日開催の「公開討論会」まで約10日位しかない中でご来場して頂く方々へのお声掛けをどうするかを考えている。しかし私自身の答えは素晴らしく作成して頂いたチラシを手には知人の皆様へのお声掛け、メールにてのお誘いなどを懸命にするしかないのだろう。あー、最も大変であるご来場者集約が待っている、頭が痛い。最後に私は越谷市長選挙投票にあたり、現実である私たちが家族の暮らしの中で、立候補予定者の方々の政策が私たち家族の視線に合っているのかを考えながら投票をしようと思っている。その政策が「ニーズ」なのか「デマンド」なのか私自身もより勉強をしなくてはならないのだろう。

(埼玉政経セミナー共同代表 小口 高寛)



衆議院の大義なき解散、希望の党の突如の登場、野党第一党民進党の消滅と希望の党からの立候補と毎日政局や権力闘争の展開の中で市民活動交流会を開催。現下の状況にまず普通の市民としてどういう感覚を持つかで論議。希望の党への警戒感（ポトムアップの民主主義や多様性社会を実現できない）と同時に「民進党議員への失望感」行動説明できるのか）がまず論議される。そこから再度政権選択選挙としてどうとらえるかという論議になる。

結果、政党がらみでなく「人として信頼できるかどうか」が選択の基準になり、初めて市民自身が自分で考えざるを得なくなってきたことを共通項とした。次いで、安倍ちゃんや希望の党が全く語っていない現下の市民基盤の整備に向けた組織づくりの現状（困難性）が論議された。「何かイベントをやろうとも思ったら、楽しいことなんかない、自分の好きなことだけやってればいいのはゴッソだ」という声を皮切りに、首長や行政への点検作業は翻って自分たちにもその基準で点検が余儀なくされる事、それは必ず活動の規律化の高まりとなることが論議された。

それが息苦しいと感じるのならばそれは突如の権力闘争の前では思考停止するしかない。おりしも市長選で公開討論会の組織化で「人に伝える活動」に具体的に入った段階での格差と分解はそのことを示している。今しがた、

枝野議員が「立憲民主党」を立ち上げ希望の党に参加せざるを表明するニュースが飛び込んできた。公示前の街頭宣伝やリレートークで直接この問題を市民と語り合うことになる。

（チーム白川事務局長 三輪 辰宏）

何を信じたらいいの？



越谷市長選・公開討論会の感想

衆議院解散、希望の党の出現、民進党の消滅、立憲民主党の設立という目まぐるしい変化の中で41名の参加者が集まって公開討論会が行われた。

この場に畔上候補は、アンケートへの回答は全く欠席であり、高橋候補がアンケートに回答を行った上で出席した。従来から行われているJCの公開討論会は、中立の立場で候補者の政策を聞くやり方だが、今回の討論会は政経セミナーのマネIFESTOについての候補者の評価、意見を聞くやり方であり、構え方が

違っている。

また、今回の討論会では事前準備を行って質問した政経セミナー運営委員に工夫の跡が見られたが、その後に行われた一般参加者からの質問の方に生活の観点からよりリアル感が感じられた。

例えば、地域の団体の予算の使い方に関しては、自分たちで拠出したお金を使っている自治会の方が、市の補助金を使っているコミ協よりもシビアな使い方をしているという意見や、政権が代われば予算の使い方が変わる国の予算（自公であれば子供にシフトし、希望であれば現状のまま）を前にして、首長はどのような対応をするのかという質問が出されたが、時間があればさらに活発な質疑に繋がるのではないかという気がした。

（年金生活者 岡村 宣夫）

優先順位と消費税は？



新越谷駅街頭宣伝

越谷・南越谷での、「がんばろう、日本！」国民協議会の街頭宣伝活動を始

めてから、10月4日で三回目になります。いつも都心でやっている私にとって、この場所の人の流れには、暮らしかや地域、住民ということの実体（ユーレイではない）を感じさせてくれます。

配布しているビラを受け取った人に、「今度の選挙、どうされますか？」と話しかけています。立憲民主党が立ち上がる前は、「こまりましたねえ」という声がほとんどでした。立ち上がった後は、「いろいろ比べてみて、自分に近いのは立憲民主党かな」（30代女性）、「枝野さんのところですね」（50代男性）といった会話になります。私からは、課題が山積しているなかで、政策論争が大事なことは当然です。だからこそ、そのための場である国会が、定められたルールにもとづいて運営されなければなりません。この大前提が共有できる議員に入れ替えていくことが、今度の選挙ではないでしょうかと話し、機関紙「日本再生」の紙面を紹介。読んでみませんか、すすめています。皆さんも、ぜひ参加してみませんか。

（「がんばろう、日本」国民協議会事務局員・瀬尾）

“市長・国会議員” あなたは何を基準に 選びますか？

